

北日本經由による 中海コハクチョウの渡来コース

内 田 映

(1) 朝鮮半島方面よりの径路検討

昔から宍道湖へ飛来していたオオハクチョウ (*Cygnus cygnus*) は、北海道から本州を南下して渡来していたというのが定説のようであった。然し第二次世界戦争後即ち終戦後は朝鮮半島経由説が主張されるようになった。そして現在中海へ渡来のコハクチョウは、殆んどがコハクチョウ (*Cygnus columbianus*) であるが、これについても当地方では朝鮮半島経由、日本海上を直行、朝鮮半島と北日本からの半々渡来、渡来時は朝鮮半島一渡去時は北日本経由などと、殆んどが確固とした証

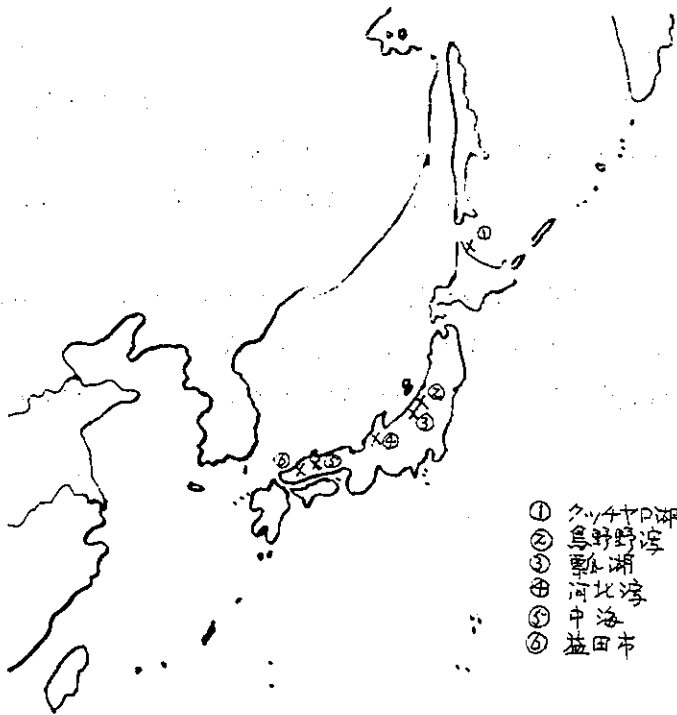
明資料もない主観的な主張が唱えられている。

このことに対し、筆者は一般に考えられる朝鮮半島経由の渡来について、朝鮮半島、朝鮮海峡の対馬、山口県方面のハクチョウ類の状況を文献上より検討して、先に「朝鮮半島のハクチョウ類(1974)」を発表した。その結果、これらの地方のハクチョウ類の状態からして、中海渡来コハクチョウ群は、朝鮮半島経由よりも、むしろ北日本経由と考える方が妥当と思われた。

(2) 北海道クッチャロ湖並に日本及び 中海間のコハクチョウ渡来関係

昭和48-50年度の北海道北端オホーツク

海岸の浜頓別町のクッチャロ湖とその付近のポロ沼とで観察されたコハクチョウの羽数と環境庁ガンカモ科鳥類全国一斉調査コハクチョウ羽数との比較検討により、日本渡来コハクチョウは、クッチャロ湖を経て渡来していることが分った。この全国一斉調査資料には中海コハクチョウも当然含まれているので、数量的関係からみて中海渡来コハクチョウ群は、クッチャロ湖経由であると考えられた。



島根県・中海渡来コハクチョウの径路地

(3) クッチャロ湖及び河北潟での日本標識コハクチョウの島根県下への渡来

昭和51年11月4日に益田市の池で005Yの首輪標識のコハクチョウが発見された。このコハクチョウは、同年4月11日にクッチャロ湖で標識放鳥されたもので、そのあと繁殖地のシベリアへ帰り、そして再び日本へ渡来したものであった。このコハクチョウは、島根県下で発見された最初の標識コハクチョウであり、北海道と島根県を結ぶ標識コハクチョウとして重大な意義を示した。

次いで11月13日には、中海の東出雲町意東海岸で、001KY記号の首輪コハクチョウも発見された。このコハクチョウは、同年3月16日に石川県河北潟で標識放鳥されたものが、これも一旦シベリアへ帰り、そして中海へ渡来したものであった。これは河北潟と中海を結ぶコハクチョウ渡来コースの証明資料として大きな意義を与えた。

(4) 中海コハクチョウ群は北海道経由で飛来

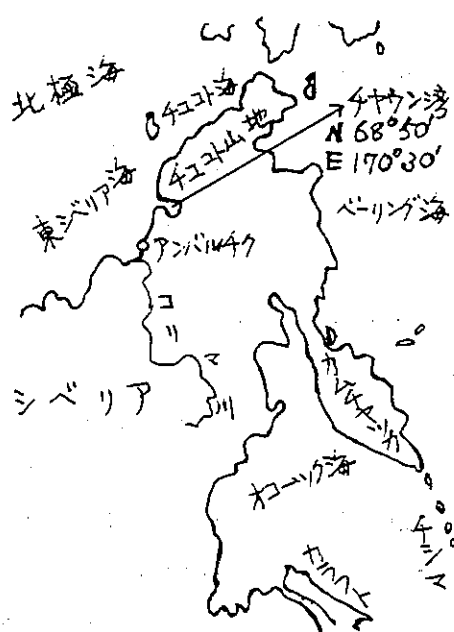
以上のこと、即ち日本渡来コハクチョウは、北海道北端のクッチャロ湖に先づ渡来し、南下して日本各地へ分散して、南限の中海まで渡来していることが数量的に推定出来たことと、更にこの2羽の標識コハクチョウが、このことを証明するものと思う。

それで昭和51年11月21日の島根野鳥の会10周年記念総会でその概要を報告した。次いで「治山と林道・昭和52年1月号・島根県森林土木協会報」に簡単に記述し、更に「しまね野鳥・10巻1号・昭和52年5月」に詳述した。最後に昭和52年7月24日、昭和52

年度日本鳥学会大会（東京）で、「中海渡来コハクチョウ群の渡りについての考察」と題して研究発表した。尚この研究発表では、参考までに中国でのコハクチョウとオオハクチョウの分布図のスライドで、日本と同様に中国でも、コハクチョウがオオハクチョウより南部まで飛来し、福建省、広東省、台湾まで渡っていることを付け加えて説明した。

(5) ソ連標識コハクチョウ2羽今冬の中海へ渡来

今冬（昭和52-53）も700羽を数えられたこともあった程のコハクチョウが中海に渡来したが、オオハクチョウは19羽が観察されたに過ぎなかった。



ソ連東シベリア・チュウコト半島
(チュウコト半島)位置図

昨年11月19日に中海意東海岸(東出雲町)で、赤色首輪に009Cという標識をつけたコハクチョウが発見された。多くのコハクチョウ群の中に一緒にいて、海岸近くまで寄って来て、

肉眼でもその数字が読みとれる程、人恐れをしていなかった。

このコハクチョウは、一昨年8月29日にソ連東シベリアの北極海に面したチュコト半島で標識放鳥された幼鳥であった。同年10月25-30日に北海道のクッチャロ湖で見出されていた。日本で年を越し、昨年1月2日に新潟市の鳥屋野潟で発見され、13日には新潟県水原町の瓢湖に現れ、その後何れへか移動して再び1月30日に瓢湖に姿を見せた。その後、シベリアへの帰北途中には3月29日に北海道の苫小牧付近のウトナイ湖で発見され、翌30日には、日本での帰北最後の地、北海道北端のクッチャロ湖で観察された。このような経過で東部シベリアへ帰った後、今冬には昨年11月19日に島根県の中海意東海岸で発見されたのだった。

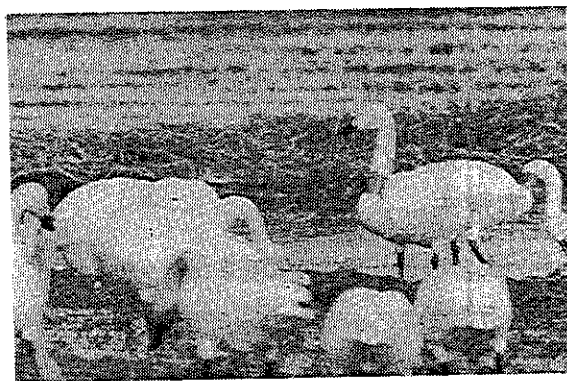
この009Cコハクチョウこそは、ストレートに東部シベリアー北海道ー本州ー中海の渡りのコースを示す最も貴重な標識コハクチョウであった。筆者は昨年12月10日、22日と本年2月19と3回親しく観察した。

更に中海では、今冬もう1羽の038Cというソ連標識コハクチョウが、昨年12月16日に鳥取県側の弓ヶ浜干拓予定地中海で発見された。このコハクチョウは、昨年8月18日にチュコト半島の北極海に面するチャウン湾(ソ連チュコト民族管区)付近で標識されたもので、中海渡来の前に12月4日にクッチャロ湖で観察されていたものであった。このコハクチョウも、東部シベリアー北海道ー中海の渡来径路を示す大切なコハクチョウだったが、今年1月16日に米子市安部地内の中海々岸で死体として発見されたことは、まことに遺憾なことであった。

幸に筆者は12月22日に、安来市島田干拓地沖合の中海で、単独1羽で海面を游泳しているのを観察し写真撮影もしていることが、せめてもの慰めとなった。

(6) 結 言

以上のように今冬(昭和52-53)は、ソ連標識コハクチョウが2羽までも中海に渡来したことは、まことに意義あることで、これにより更に確実に中海渡来コハクチョウは、東部シベリアー北海道ー本州(日本海側)ー中海のルートであることを証明してくれたものと言える。特に009Cコハクチョウは、最も如実にこのことを示しているものと思料する。終りに中海渡来の標識コハクチョウの一覧表を掲げておく。



[009Cは1978.3.12福島潟(本田)同4.6.クッチャロ湖(山内)により観察された写真は福島潟での009C、右は同時に観察された006C 以上編纂子]

島根県・中海へ渡来の標識コハクチョウ

| 首輪 記号 | 首輪 の色 | 種 名 | 標 識 放 鳥 | | 日 本 渡 来 観 察 | | 備 考 |
|--------------------|-----------------|------------|---------------------------------------------------|-----------------|---------------------|------------------|-------------------------------|
| | | | 地 名 | 年月日 | 地 名 | 年月日 | |
| 005Y | 緑 | コハク チョウ | 北海道浜頓別町 クッチャロ湖 | 1976. 4. 11. | 島根県益田市 | 1976. 11. 4 | 11月12日江津市へ移り、 17日高圧線に触れ、落鳥 |
| 001KY | 茶色 | コハク チョウ | 石川県津幡町 河北潟 | 1976. 3. 16. | 島根県東出雲町 中海意東海岸 | 1976. 11. 13 | 民間人による私製標識 |
| 009C | 赤 | コハク チョウ | ソ連 チユコト半島 | 1976. 8. 29. | 北海道浜頓別町 | 1976. 10. | ソ連放鳥時幼鳥 |
| | | | | | クッチャロ湖 | 25 - 30 | |
| | | | | | 新潟県新潟市 鳥屋野潟 | 1977. 1. 2. | |
| | | | | | 新潟県水原町 瓢湖 | 1977. 1. 13. | |
| | | | | | 新潟県水原町 瓢湖 | 1977. 1. 30. | |
| | | | | | 北海道苫小牧市 ウトナイ湖 | 1977. 3. 29. | |
| | | | | | 北海道浜頓別町 クッチャロ湖 | 1977. 3. 30. | |
| | | | | | 島根県東出雲町 中海意東海岸 | 1977. 11. 19. | |
| 038C | 赤 | コハク チョウ | ソ連 チユコト民族 管区タウン湾 北緯 68°50' 東径 170°30' | 1977. 8. 18. | 北海道浜頓別町 | 1977. | ソ連放鳥時幼鳥 |
| | | | | | クッチャロ湖 | 12. 4 | |
| | | | | | 鳥取県弓ガ浜 | 1977. | |
| | | | | | 干拓予定地中海 | 12. 16. | |
| | | | | | 島根県安来市島 田干拓地沖合中海 | 1977. 12. 22 | |
| 鳥取県米子市安 部地内中海海岸 | 1978. 1. 12. | 死体で発見 | | | | | |

参 考 文 献

1. 内田 映(1974): 朝鮮半島のハクチョウ類(しまね野鳥・13号・昭和49年5月)
2. 鄭作 新(1976): 中国鳥類分布名録
3. 内田 映(1977): 中海コハクチョウの渡りのルート(治山と林道・68号・昭和52年1月)
4. 内田 映(1977): 中海渡来コハクチョウの渡りのルートについて(しまね野鳥 10巻1号・昭和52年5月)
5. 内田 映(1977): 中海渡来コハクチョウ群の渡りについての考察(昭和52年度日本鳥学会大会研究発表要旨・鳥・26巻2/3号・昭和52年11月)
6. 日本の白鳥(1977): 4号・日本白鳥の会

拓
い
め

ソ
し
は
3シ
ル
る。
)と
渡
。



4.6.
れた
観察